

「千葉氏を

語る」だより

令和4年度第14号
千葉氏を語る会
事務局
発行日
令和4年10月1日

第八回 総会開催

令和四年六月五日午後一時
第八回千葉氏を語る会の総会
は、蘇我コミュニティセンター
分館ハーモニープラザハーモニ
ーホールにて開催された。

定刻、司会者より本日の会員
数は七三名、出席者三五名、委
任状による出席者二〇名、合わ
せて五五名で会員数の過半数に
達しており、規約第八条により
総会は成立との報告あり、丸井
敬司副会長より開会の宣言がな
された。

向後保雄会長の挨拶（要旨）

当会の会長は本来、丸井先生
が就くべきところ、私が議員で
あり、先生とは旧知の仲なので
ご推挙頂いてここまできている
当会の活動は、コロナ禍の影
響で制限されていたが、まん延

防止も解除され少しずつ社会経
済活動も元に戻ってきている状
況にある。総会は対面で行いた
い思いでいたが、今日、思いは
かなった。

田中大喜先生の講演も本日に
延びたが、シンポジウムも含め
最後迄研修して頂きたい。

最近、NHKドラマの影響も
あり千葉氏に対する歴史に興味
が段々浸透して来ている。当会
での「千葉常胤公物語」の紙芝
居の更なる活用などのほか、
“千葉氏のキャラクター”を創
りたい。皆さまのアイデアを頂
いて千葉常胤を盛りあげて行き
たいのでよろしく。

なおこの度、向後会長は
「藍綬褒章」受章の栄を賜った
これを祝して、

冒頭にお祝い品をお贈りした。

議事に入るにつき

本会副会長鷺見隆仁氏を議長
に選出。

議長は、各関係役員を指名し
議案の報告を求める。

議事

・報告議案

第一号議案 令和三年度事業報告

第二号議案 令和三年度決算報告

第三号議案 令和三年度監査報告

第一号〜第三号議案の報告・

説明の後、一括し原案通り

承認された。

・協議議案

第一号議案 令和四年度

事業計画案

第二号議案 令和四年度

収支予算案

第三号議案 令和四年度

役員及び顧問の改選

第一号〜第三号議案の説明の

後、一括し原案通り成立した

以上で全ての本総会提出議案
は承認され、議長は総会の終了
を宣言した。

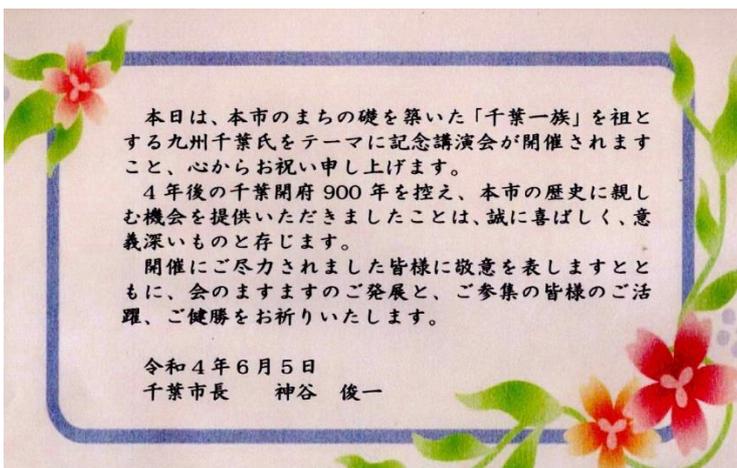
続いて、国立歴史民俗博物館
准教授 田中大喜氏に「肥前千葉
氏の本拠を探る」の演題で記念
講演をお願いした。

講演の後は、シンポジウムを
行い（パネラー…田中大喜氏・

濱名徳順氏・丸井敬司氏、
司会…京極勇剛氏）日程を終了
した。

講演に入る前に千葉市長

神谷俊一様から次の通り
メッセージが披露された。





講演会受付



中世の城

(会員)日向安昭

・古代の城

「城」いう石垣や天守閣を思い出す人が多いですが、それは江戸時代の城の一部をさしているだけです。中世の山城は山の上に城があつたのではなくて、山の斜面自体が石垣であつたと考えられます。

「城」という文字は、「土」と「成」で作られています。つまり、城は防御を目的として地面を造成した施設といえるでしょう。

弥生時代、九州の吉野ヶ里遺跡のように、高地の集落のまわりに広い溝をめぐらせたものが作られました。小規模な共同体同士の間があつたことから、集落を守るためと考えられます。

奈良・平安時代には、中央政権の蝦夷征伐の拠点として、東北地方に多賀城等の城柵が作られ、施設として行政府としての官衙(役所)が置かれ、低い丘陵上や沖積地に造られました。軍事施設の意味は弱かったですが8世紀後半になると蝦夷との動乱

期にはいり軍事的意味の「城」が使われたようです

●中世前期の城

南北朝時代に造られた城であつても、現在残っている城跡の姿は、築城時の姿ではありません。発掘調査例の限りでは、出土遺物が示す年代は15世紀以降のものばかりで14世紀以前の城の姿は今のところわかりません。

・鎌倉時代の館は、溝の幅(1mか2m)に区画され、内側に塀か柵をめぐらした程度のもので、防御力は十分ではなかったです

・南北朝時代に入ると、溝の幅が広い塀になり、周囲には土塁を築いて館の防御性が強化されました。

・室町時代、15世紀に入ると、塀や土塁の防御性が一段と強化され、城・館としての要害が全国的に普及しました。館は、複数の区画(廊)から構成されるようになった。

●戦国期の城

15世紀半ば以降は、鎌倉公方と関東管領対立がおきます。山城はこの時代に一挙に増加します。在地に根柢を持つ領主層が館とセツトしてその背後の山に城を築き、それを恒常的に維持するようにな

つたのはこの時代以降と考えられます。

・戦国武将が地域を統一するようになり、千葉県は、千葉氏です。千葉氏は多くの士族を輩出し、地域での地頭、または領主の地位にありました。

武田、上杉氏、里見・正木氏、後北条氏などの有力国人の領主間で領土紛争を行う戦乱の時代になります。

在地領主は戦国大名や有力国人領主の被官となり、彼らの城は広域権力の本城に対する支城として機能します。

・戦国時代後半(16世紀後半) それらの支城が取捨選択されて機能を失う城も出てきます。

支城主としての領主は本城内やその城下に詰めるようになり、城は国境や交通の要所などに位置するもので、大名などの上位権力によって改造が加えられます。

また広域権力は一時的な砦や陣城を造ったほか、半農半武士という武器を持った農民層が自らの村を守るために、有力農民が中心となって築いた村の城も築かれました。この時期に築城された城は、

歴史的状況や城主の交代などによつて、機能が変化します。城を巡る歴史は古文書や発掘調査によつてすべてがわかるわけではありません

この時代の城郭の例として、曲輪の上に天守閣は持たずに、簡易な建物があり、領主は常時山の下にある居館に住み、いざというときに立てこもるものだったようです。

千葉県内の場合、千葉宗家の居城した本佐倉城や原氏の臼井城は周囲に小規模で砦的な城館を配置鶴という、点と点を結んだような形があります。

近世
徳川家康によつて江戸幕府が開かれ、房州にも徳川氏の家臣団が配置され、それぞれの城や陣屋を構えました。

以上、千葉県教育委員会・千葉市教育委員会の文化財課の資料で城郭リストを作成しましたが、個々の城郭・館跡の歴史的考察は、殆ど文章として残っていません。今後、城主を含めて城郭を整理していきたいので、資料がありましたらよろしくお願ひします。

参考資料

(千葉県教育委員会資料)
・築城時期と城郭

築城時期	城郭	%
中世	435	41.3
室町	23	2.2
戦国	312	29.6
戦国後期	287	19.6
近世	23	2.2
	1054	100%
不明	84	

紙芝居 公演会

(会員)江波戸弘安

令和四年五月十日(火)おゆみの公民館に於いて地元「おゆみ野歴史愛好会」のご依頼により

お馴染みとなった「千葉常胤物語」の紙芝居公演が行われた。

当会より、日向、江波戸、石橋の各会員が派遣され、参加し十六名の愛好会の皆さんの前で先ず紙芝居の「読み聞かせ」と復習を兼ねた簡単なクイズで馴染んで頂いた後、歴史を勉強して参加者の皆さんに合わせる形で

三つの講演を行なった。

(1)鎌倉幕府の成立と千葉常胤

房総半島に土着した両総平氏の内、千葉庄を本拠とした千葉氏は保元の乱(1156)で源義朝に従い天皇の住む内裏を守る等戦功を立て、続く平治の乱(1159)では義朝の呼びかけには応ぜず義朝が平氏に敗れると本拠地の千葉庄以外は没収され両総武士団の中の地位は低下していった。平治の乱後伊豆に二十年に渡り幽閉されていた頼朝が挙兵するも初戦の石橋山で敗れ、安房国へ逃れてきた。

常胤は早く頼朝の呼びかけに応じ両総武士へ参陣を呼び込むなど頼朝を囲い込む戦力増強に尽力した。

常胤は平氏を討つために西国に又、奥州藤原氏を討つためにと活躍し、鎌倉幕府の成立に大きく貢献した。その結果恩賞として東北から九州に至る各地に所領獲得し、幕府内でも有数な御家人となった。

(2)千葉常胤とその六党

常胤は全国に獲得した所領を六人の息子達(千葉六党)に分け与

え千葉六党は与えられた所領をベースに各地で活躍していった

・太郎胤正 (千葉氏宗家)

蒙古襲来時に小城の所領は直接当主の統治となり嫡流宗胤が下向、以来戦国を生き抜きその末裔は当地で力を増してきた鍋島氏に吸収された。

・次郎師常 (下総相馬)

1189年奥州征伐の勲功により陸奥行方郡を賜りその子孫は相馬を号し移住し現在の南相馬へ所領拡大、戦国時代から江戸幕府の世を生き抜き抜いた。

・三郎胤盛 (下総千葉郡武石)

下総武石郷を伝領、その後奥州での活躍により陸奥国亘理他を領有し亘理を称した、その後伊達氏に認められ、伊達姓を賜り旗下となった。

・四郎胤信 (下総香取郡大須賀)

奥州征伐の功績により好島(いわき)を領有し、下総の守護代を務める等千葉一族の有力者であった。

・五郎胤道 (下総国葛飾郡国分)

香取郡大崎にも所領あり、又奥州、三河にも加恩の所領も持ち守護代等を務め

香取郡一帯に勢威をふるった。

・六郎胤頼（下総国香取郡東庄）

東庄三十三郷、その後三崎庄五十五郷を与えられ、平氏政権下の京都に出て上西門院に仕えて従五位下に叙せられた。頼朝の挙兵に当たり率先して父に支持を進めた。

東氏三代目嫡流胤行が承久の乱の鎮庄に功績を認められ、山田庄(岐阜県郡上市)を賜り、初代郡上東氏として下向す。郡上東氏九代目常縁は「古今伝授」で名高かく和歌の秘伝を研究しその第一人者、又、郡上東氏一族からは京都、鎌倉五山の高僧を多く輩出している。

古今伝授で名高い東常縁は1455年に起こった千葉宗家の内紛に心を痛め、幕府の要請もあり鎮庄のため十年に及ぶ長き間下総を転戦し馬加康胤を滅ぼして、千葉介胤直の仇を討った。十二代常堯の時代家臣遠藤氏とのトラブルにより常堯は負けて追放された。東氏の血縁でもある遠藤氏が当主として後を引き継ぎ戦国、江戸時代を

生き抜き明治に至る。

③小弓城と千葉一族の動向

(会員)日向安昭

配布資料

- ① 小弓城年表
- ② 千葉常胤の時代、結城浜の戦い地図
- ③ 房総平氏系図

紙芝居公演中の様子



④ 鎌倉幕府の基本構造解説

(本郷和人氏解説)

東国の武士は所領の安堵を確保しようとする機運が高まっていた。

1 平清盛が武家政権と言われな
い理由①平清盛の平氏政権が
最初の武家政権とされないのは
平氏一門は朝廷内での昇進に

よって貴族化したためである。

②在地領主である武士に対して年貢を課す貴族が増えただけに過ぎないため、東国武士たちは不満を募らせた。

2 鎌倉幕府は、朝廷に使われていた武士ではなく、武士のため
の武士による独立政権を目指
していた。①鎌倉殿Ⅱ東国の
武士の棟梁である頼朝が土地の
安堵などを行うことを「御恩」
②それに報いるために武士たち
が軍役などに就くことを
「奉公」と呼んだ。

それを受け入れた武士たちは、
頼朝の直属の家臣として「御家
人」と呼ばれる。荘園や国衛領
の地頭に任命された御家人たち
は、年貢徴収・納入や現地の管
理など荘園や国衛領の領主に対
する職務を果たしつつ、その結
果として給免田や加徴米の取得
権などの得分を手にするこ
とになった。

3 承久の乱で幕府と朝廷の関係
に変化①ところが、後鳥羽上
皇らが想定していた勢力が味方
に付かず、鎌倉に有利な状況に
なりました。②さらに後鳥羽上

皇の読みが外れて鎌倉幕府の御
家人たちは結束を強めます。有
名な北条政子(ほうじょうまさこ)
の演説が絶大な威力を發揮した
です。③宇治川で対峙した後鳥
羽上皇と幕府軍の戦いは一日で
決着が付き、後鳥羽上皇の敗北
が決定的となりました。

4 1225年 嘉祿元年 評定
衆の成立 義時・政子の死
北条政子の死と鎌倉殿・藤原
(九条)頼経の元服という新体制発
足に合わせて成立したのが評定
衆で、これは有力御家人らの
合議体であり、執権・連署と
ともに重事の決定や訴訟の裁断
に臨んだ。

編集後記 編集子

大変遅くなりましたが、会報
誌十四号をお届けします。
今回号では、六月五日に開催
された第八回総会とその後の
講演会とシンポジウムの様子
を載せました。会員日向さん
が調査している「中世の城」
は今後読んでもらう予定です。昨年よ
り当会で実施している紙芝居
は好評です。